

与論島を活性化させるためにはどのようなことをすればよいか

法文学部経済情報学科 1年

佐原 千遥

与論島を訪れたのは今回この集中講義が初めてだった。ここで私は、与論島の青と緑に囲まれた美しい景観と人のあたたかさに感動した。また自然をはじめ料理や歴史など、与論島について多くのことを学ぶことができ、とても貴重な体験となった。そしてこの集中講義を通して、与論島にもう一度訪れたい、また与論島の良さをもっと沢山の人たちに知ってもらいたいと感じた。そこで集中講義のまとめとして、与論島をもっと活性化させるためにはどのようなことをすればよいか考えてみた。

まず私が与論島で感じたのは、島内での交通手段についてである。私は島内を楽しむには自転車が特に良いと感じた。実際に自転車を利用して島を探索して、バスやレンタカーも便利でよいが、島独特の自然の景色や風をじっくり感じるには、自転車がよいと思ったのである。とはいえ、遠方から自転車を持ってくるといのはお金も手間もかかるものである。そこで私は、自転車のレンタル事業を始めればよいのではないかと考えた。与論島は一周するのにバスでも四十分程度である。せつかく与論島に来たのだから、バスやレンタカーといった自動車を使わずに体を使って楽しむことも、都会ではできない与論島ならではの体験になるのではないかと考えた。鹿児島市にも、「かごりん」という自転車のサイクルポート式のレンタル事業がある。料金の支払いは機械で行っているので、同じような仕組みで設置すれば、二十四時間無人で利用することが出来る。次に私が気になったのは、いわゆる“特産物”についてである。今回とても美味しいモズクそばをいただいたが、与論島といえばモズクそば、というイメージはなく食べて初めて知った。“与論島と言えば”“与論島ならではの”の何かがあれば、よりPRしやすくまたグルメとしての観光も行えるのではないかと考えた。

今回の集中講義でいただいた資料によると、与論島を訪れる人達の旅行の目的は自然体験・癒しや憩いの体験・マリレジャーで約六割を占めている。私は、与論島の持つ素晴らしい自然をもっとPRすることが出来るのではないかと感じた。実際に観光に係る課題として、観光情報が少ないというものが上がっている。高校生の与論島修学旅行プログラムを見て、シュノーケリングやマリレジャーなど、与論島ならではの海を生かしたマリンスポーツがたくさん紹介されていたが、実際にガイドブック等には詳しく掲載されていない。ガイドブックでも、マリンスポーツをはじめ、自然や絶景スポットなどをもっと大きく取り上げるとよいのではないだろうか。地図自体は見やすかったが、写真や穴場スポットなどを多く掲載すれば、観光客の方たちも与論島をより満喫することが出来るのではないかと考えた。お店の名前や料金だけではなく、インターネットで調べなくても分かるよう、ガイドマップでとどまらずにガイドブックを作成し、より分

かりやすく簡単に与論島について知ることが出来るような工夫をすると良いのではないかと感じた。

また、イベントを利用して与論島に来てもらおうと良いのではないだろうか。百聞には一見に如かずという言葉があるが、まさにその通りだと感じた。実際に目で見た与論島の海は写真では表現しきれない程素晴らしかった。一度与論島の海を知れば、もう一度来たいと思う人は多いはずである。そこでまず来てもらうために、海での結婚式やマリンスポーツの大会など、百合ヶ浜を初めとした海を使うイベントをもっと企画すると良いのではないだろうか。また、グラスボートに乗った際に、自然の海で泳ぐウミガメを見て驚き感動したのだが、ウミガメは見ることの出来ないことの方が珍しいと聞いた。自然の海で泳ぐウミガメを実際に目で見ることのできる場所は少ない。そこをもっと大きくPRしてほしいと感じた。

与論島は想像していたよりずっと素晴らしいところだった。私自身、絶対にもう一度行こうと決めているが、一度来た人は二度来るだろう。そのくらい海も自然も人も優しくあたたかい素敵な島だった。もっと与論島のことを沢山のの人に知ってほしい、そしてそれが与論島の活性化につながればと感じた。